

等身大の人間行動を考えた 地震リスクマネジメントのすすめ

日時: 2011年2月24日 午後6時半から8時半(午後6時受付開始)

場所: 東京国際フォーラム・ホール D5 (JR 山手線有楽町駅前)

参加は無料です。2011年2月1日以降、裏面のインターネットで参加登録をしてください。

人々は、地震リスクから目を背けているように見えます。
しかし、ほんのわずかに人々に^{ナッジ}Nudgeする(働きかける)と、
人々は、またたくまに地震リスクに真正面から向き合うようになります。
本フォーラムでは、こうした人間行動の機微を踏まえた新しい防災政策を提起します！

コーディネーター: 齊藤 誠(一橋大学大学院経済学研究科 教授)

これまでの経済政策にもっとも欠けていたのは、マーケティングの視点です。

ちょっとした工夫で防災政策をマーケティングすることで、民間のビジネスチャンスも大いに広がります。

安上がりで効果抜群の新しい防災政策を提起します。

問題提起者 No.1 中川雅之(日本大学経済学部 教授)

「マンションの耐震性選好におけるフレーミング効果」

マンション購入者は、最低限の耐震性で事足りりとしているのでしょうか？

実は、人々が建築基準をはるかに超える耐震性をマンションに求めていることをお見せします。

問題提起者 No.2: 佐藤主光(一橋大学大学院経済学研究科 教授)

「地震保険の選択行動におけるコンテキスト効果」

高額の地震保険は、消費者から相手にされないのでしょうか？

実は、人々が地震に対して十分な備えを求めていることをお見せします。

問題提起者 No.3: 竹内 幹(一橋大学大学院経済学研究科 講師)

「耐震性と居住性のトレードオフについて」

日々の住み心地は、まさかの時の安全に優先されているのでしょうか？

最新鋭の実験機器(アイトラッカー)で快適さと安全性の間で揺れ動く心の内をそっとのぞいてみます。

